

【担当教員名】 市島民子	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15
【<概要>又は<一般目標：G I O>】				
言語発達の前言語期から言語期への過程、”声からことばへの過程”である 前言語期では、音声言語の基盤である発声行動および言語音知覚および コミュニケーション行動の発達に関して実際の画像を交えて理解する。 言語期では、”ことばはいかに獲得されるか”というテーマで、初語期から学童期までの言語獲得過程を学ぶ				
【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】				
<ul style="list-style-type: none"> ・健常児の言語発達は、言語発達障害の基盤であり、言語臨床の評価および指導のために必須である。すべてが基礎知識として必要であるため、確実に学習し理解する。 ・視聴覚機器を使用することで、実際の状態を確認しながら、各々が具体的で、体験的な学習となるよう努める。 ・基礎的な知識として、専門用語を理解し、使用できること。 				

回数	計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	言語発達とその関連領域	言語の諸側面を理解する 全体発達の一領域としての言語を理解する	講義
2	コミュニケーション行動の 視線の共有	乳児のコミュニケーション行動、力動の流れ、内容 母児相互作用：見ること	講義・視聴覚機器使用
3	コミュニケーション行動の やりとりする関係	コミュニケーション機能の出現 母児相互作用：聴くこと	講義・視聴覚機器使用
4	発声行動と言語音知覚	音・発声・音声の過程および言語音知覚の能力	講義・視聴覚機器使用
5	感覚運動的知能の発達	ピアジェの発達段階	講義
6	1～2歳児の言語発達	初語獲得から2語への過程	講義
7	幼児期、学童期の言語	言語表出・理解/音声言語・読み書き	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書				
参考書	よくわかる言語発達	やわらかアカデミズムシリーズ	岩立志津夫・小椋たみこ編	ミネルヴァ書房2001年
その他の資料	入門コース	ことばの発達と障害1：ことばの発達入門	秦野悦子編	大修館書店
	講義では全てプリント使用			
【評価方法】	【履修上の留意点】			
小レポート 試験またはレポート 出席	講義回数が7回であるので、出席は履修最低条件である。			